

進路環境D

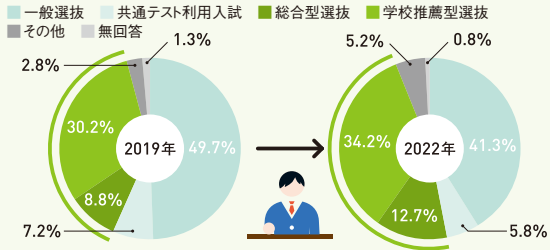
—「今」が見えてく

そのまま教室に掲示！

進学_の動向

年内入試利用者の増加

[進学する大学に合格した入試方法]

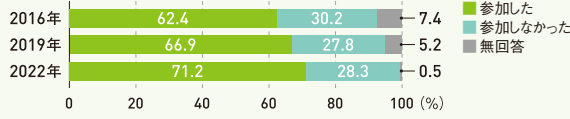


大学入試は、以前は年明けの受験が多かったが、2022年には、学校推薦型選抜や総合型選抜という年内に行われる入試を受けて進学する高校生が、全体の半数近くに。それぞれの入学者選抜の特徴を早めに調べておこう。

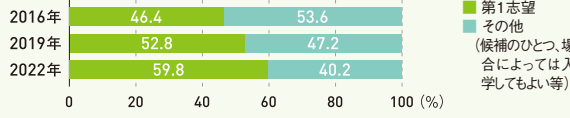
リクルート進学総研「進学センサス2022 高校生の進路選択に関する調査」より集計
※2022年に合わせて、2019年以前の選択肢を次のように対応。一般入試→一般選抜、センター試験→共通テスト、AO入試→総合型選抜、推薦入試→学校推薦型選抜

志望校絞り込みの早期化

[進学する大学のオープンキャンパスの参加経験]



[進学する大学のオープンキャンパス参加時の志望度合い]

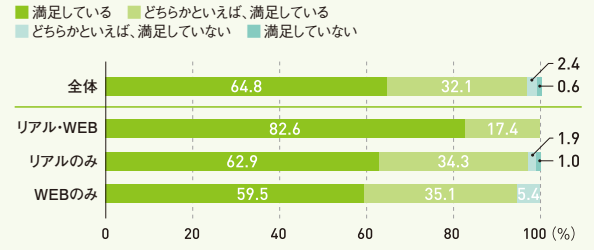


進学先の参考になるオープンキャンパス。平均参加回数は以前と比べ減ったが、「自身が進学する大学」のオープンキャンパスへの参加経験者は7割に上昇。志望校を絞り込むための情報を早期に集める傾向が強まっている。

リクルート進学総研「進学センサス2022 高校生の進路選択に関する調査」
※大学進学に関する過去3回の調査データを抜粋

リアルとWEBの両方参加で満足度UP

[進学先のオープンキャンパス参加における満足度]

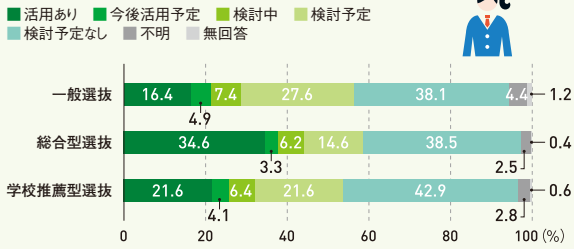


進路検討の材料として、WEBオープンキャンパスを利用する人が増加。参加満足度は総じて高いものの、リアルとWEBの両方に参加した学生ほど満足度が高い。オンラインでの情報収集も積極的に活用しながら、リアルなオープンキャンパスで学校や学生の雰囲気を把握しよう。

株式会社アンド・ディ「オンラインオープンキャンパスに関する調査」(2021年)
※「リアル」は、「学校で開催されたオープンキャンパス」を示す

将来を見据えた英語4技能の習得を

[大学入試における英語資格・検定試験活用状況]

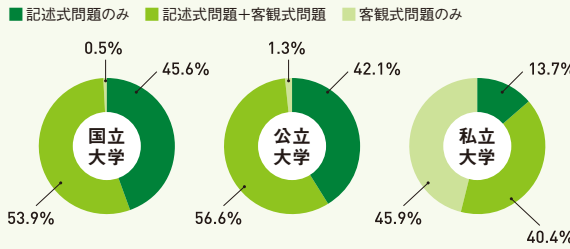


大学入試では、いずれの入試方式でも英語4技能(読む・聞く・書く・話す)を測る民間の検定試験の活用が進んでいる。「今後活用予定」「検定中」という学校もあり、今後も活用比率の上昇が予想される。大学入学後やその先のグローバル社会を見据えて4技能習得を目指したい。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」

記述式問題で問われる思考力・判断力・表現力

[一般選抜における出題形式の状況]

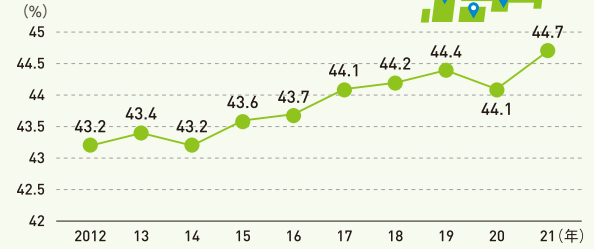


大学入学共通テストへの記述式問題導入は見送られたが、個別学力検査では既にほとんどの国公立大、半数強の私立大が記述式問題を出題している。解答には自らの力で考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力が必要。日頃の授業から自分の考えを言語化する練習を。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」
※記述式：語句、文、図表などで解答／客観式：○×式、選択式、並べ替え式など

地元の学校に通う学生は増加傾向

[地元残留率の推移(全体)]

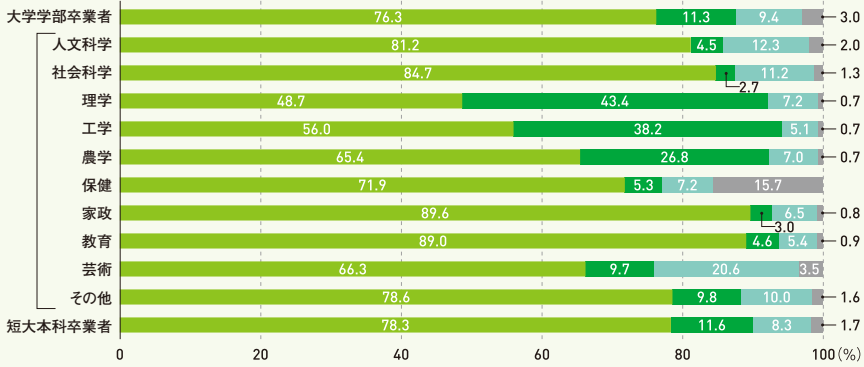


大学入学者の地元残留率は、2012年の43.2%から2021年は44.7%と、10年間で1.5ポイント上昇。短大入学者では同年比較で3.5ポイント上昇している。都市部にも地元にも、魅力ある学校や企業は数多くあるもの。広い視野をもって進路選択を行おう。

リクルート進学総研 マーケットレポート2022年5月号
[18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向]

大卒者の10人に1人は進学も就職もしていない

[大学・短期大学卒業者の学部系統別進路状況]

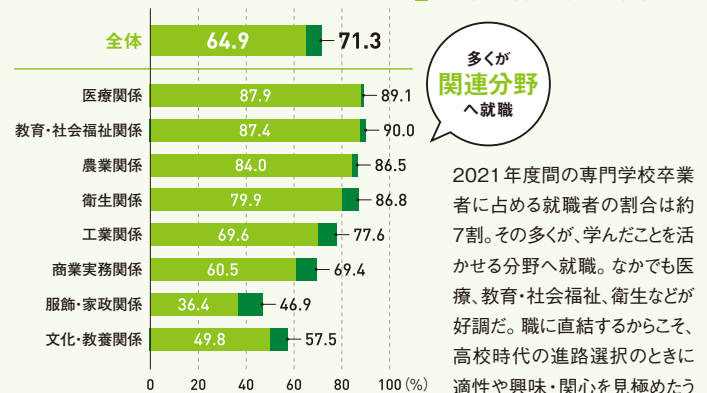


2021年大学卒業生全体に占める就職者等の割合は76.3%。大学院等への進学者は平均11.3%だが、理系学部の比率は高め。進学でも就職でもない(無業)者は9.4%存在。大学で何を学ぶか、目的・目標をもって進学することが卒業後の進路につながる。

文部科学省「学校基本調査」(2022年3月卒業生について) ※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職しかつ進学した者を含む)
※グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

職に直結していく専門学校の学び

[専門学校卒業者の就職状況]



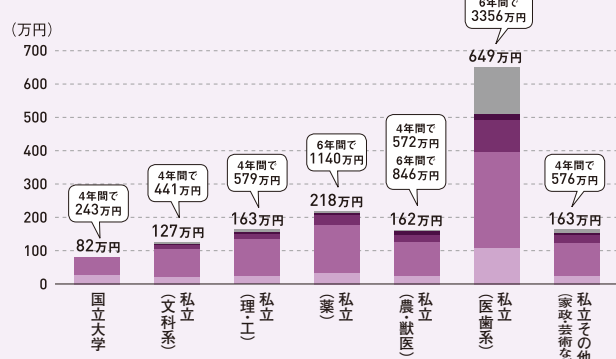
多くが関連分野へ就職

2021年度間の専門学校卒業生に占める就職者の割合は約7割。その多くが、学んだことを活かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調だ。職に直結するからこそ、高校時代の進路選択のときに適性や興味・関心を見極めたいので進学することが欠かせない。

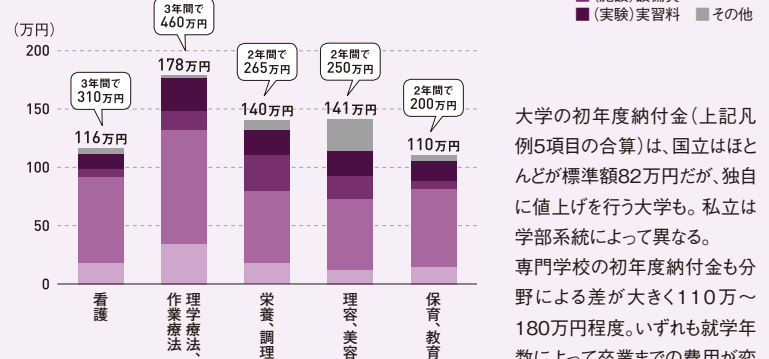
文部科学省「学校基本調査」(2021年度間)より集計

初年度学納金は約100万円～。分野によって大きな差

[大学の初年度納付金]



[専門学校の初年度納付金]



大学の初年度納付金(上記凡例5項目の合算)は、国立はほとんどが標準額82万円だが、独自に値上げを行う大学も。私立は学部系統によって異なる。専門学校の初年度納付金も分野による差が大きく110万～180万円程度。いずれも就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見通しを立てておくことが大切だ。

文部科学省「令和3年度私立大学入学者に係る初年度学納付金平均額(定員1人当たり)」(昼間部)
※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

東京都専修学校各種学校協会「令和3年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(昼間部)より抜粋
※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

進学費用_の動向

